

を記載する。

(参考)---合板・ボードが3尺×6尺(910×1820mm)の場合。

設計数量(m²) × 2/3m² = 必要枚数(端数切上げとする)

設計数量(m²) ÷ 1.5m² = 必要枚数(端数切上げとする)

- 「左官工事による塗り仕上げ」-----
- 「塗装工事による塗り・吹付仕上げ」-
- 「防水工事による塗り・張り仕上げ」-
- 「石・タイル工事による仕上げ」----
- 「その他・各工事の仕上げ」-----

計測・計算による算出数値(m・m²)

を「設計数量」として記載する。

(割付計算が出来る仕上げ材の場合は、

必要数値や所要数量を算出する。)

※詳細については後編にて記載する。

3. 天井面部位。

※和室の天井板の材料には、各地産の杉・桐・樅(もみ)、数寄屋調材料には、各種網代・野根板・萩(はぎ)・百日紅(さるすべり)・葦(よし)・竹各種類、などが用いられる。

天井板(むく板)は、藁板で広幅材を使うことが多く、羽重ね(刃重ね)・目透し(底目地張り)天井等があるが、板の割れがおこらない工法(直接釘止めしなこ・直接接着張りをしないこ、等の特殊工法)にて天井板をとめること。

※竹の種類 ~ 孟宗竹(もうそうちく)・真竹(まだけ)雄竹(おだけ)・淡竹(はちく)・黒竹(くろちく)・雌竹(めだけ)・野竹(やだけ)・苦竹(にがたけ)などの主な種類がある。

- 「和室天井板(むく板・薄板)」-----材木商(銘木店)での市販品では部屋の間によって、3畳・4畳半・6畳・8畳・10畳用の天井板(梱包・ケース(畳・坪)) また間の寸法によって、田舎間関東間・中京間九州四国間・京間・真の京間の4種類に分類し、「必要数値」設計数量、所要数量(明記必要場合)を記載する。

- 「和室天井板(既製品)」-----市販品の上記と同じく間や間の寸法等に分類されている。 梱包・ケース(畳・m²) ~ 「所要数量」・「必要数値」・設計数量を記載する。

※和室天井の釣上げ(むくり) ~ 釣上げが悪いと地震や風が室内に入る等で、天井がだぶついたり、落下することから、野縁を直接吊木材で釣上げせずに、必ず別に勾張り木(野縁上部に取り付ける材)を取付ける。5間間隔に取り付け、天井棹や底目地方向に付け勾張り木にむくり造りを付ける。取付位置によってむくりの違いがある。天井は長さの5%(1/200)位のむくり張り上げると、下から見上げて水平に見える。

- 「加工木材板」-----加工働き幅・働き長さ・仕上げ厚さ、割付けにて必要数値を算出する。また特注品を使用する場合は、「挽立幅・長さ・厚さ」(枚orm²)必要数量を算出し3~5%増量し、「必要数値」設計数量を記載する。
- 「化粧板・化粧ボード(既製市販品)」-----働き幅・働き長さ、割付け必要数値を算出し、附属部品が必要な場合は必ず明記し、梱包入数を調べ、「梱包」所要数量・「必要数値」設計数量を記載する。